

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 ■事務事業の概要

1 - 1 事務事業の 名称	水道水安定供給事業									
1 - 2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	都市計画課	係	下水道係	評価票作成者	業務担当係長 近藤 潔		
1 - 3 総合計画に おける施策の体系	節	生活環境 「安全・安心で、うるおいのあるまちづくり」				基本施策	水資源		コード	1—2—5
						単位施策(中)	健全経営の維持		コード	1—2—5—2
	項	水と緑の環境づくり				単位施策(小)	健全経営の維持		コード	1—2—5—2—1
1 - 4 事務事業の 目的の精査	対象と 対象の数	愛知中部水道企業団		意図(対象を事務事業によ つてどのような状態にするの か)		企業団の健全経営を促し、市民が安心して利用することのできる水道供給を維持していく。				
1 - 5 事務事業の 内容	水道水の安定した供給ができるように健全経営を図る。									

2 ■事務事業実施の状況

2 - 1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み			社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識					
	平成18年度	企業団との連携事業を検討した。		一部事務組合である中部水道企業団も健全経営が必要である。		企業団の工事に対して厳しい視線が注がれる環境下にある。					
	平成19年度	企業団との連携を密にし、市民の要望を伝えるようにした		"		大地震の発生により、ライフライン（水）に対する危機管理意識が深まった。					
	平成20年度	企業団と事務方職員の打合せ会を実施した。		"		下水道料金の改定に伴い、水道料金そのものに対し関心が強くなった。					
	平成21年度	企業団と事務方職員の打合せ会を実施した。		"		"					
	平成22年度	下水道料金の値上げ以降市民の水道料金に対する関心が高く、市民の要望を伝えるために、水道企業団との打合せを実施した。									
	平成23年度										
	平成24年度										
	平成25年度										
	平成26年度										
平成27年度											
2 - 2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名			前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明					
	企業団に対する苦情（件）			10（件）	5（件）	企業団への満足度を示す指数。平成 1 6 年度実績 1 2 件					
2 - 3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）		平成 1 8 年度	平成 1 9 年度	平成 2 0 年度	平成 2 1 年度	平成 2 2 年度	平成 2 3 年度	平成 2 4 年度	平成 2 5 年度	平成 2 6 年度	平成 2 7 年度
	活動実績 a（件）	3（件）	2（件）	1（件）	0	1（件）					
	直接事業費 b（千円）	0	0	0	0	0					
	人件費 c（千円）	6	6	6	7	6					
	合計コスト d（b + c）（千円）	6	6	6	7	6					
	単位コスト d / a（千円）	1 件当たり 2	1 件当たり 3	1 件当たり 6	当たり 0	当たり 6	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績（活動数値）の補足説明

→ 活動実績...市へ寄せられた中部水道企業団への苦情件数。人件費...職員 0 . 0 0 1 人分。

		平成 1 8 年度	平成 1 9 年度	平成 2 0 年度	平成 2 1 年度	平成 2 2 年度	平成 2 3 年度	平成 2 4 年度	平成 2 5 年度	平成 2 6 年度	平成 2 7 年度
2 - 4 成果指標に 対応する実績と達 成度の推移	指標対応実 績（単位）	3	2	1	0	1					
	後期目標値 に対する達 成度（％）	128.5	142.8	157.1	171.4	157.1					

3 ■ 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果 (アウトカム自己 分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	単年度 担当課評価	A	A	A	A	A					

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 4段階評価結果 <ul style="list-style-type: none"> A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する B : 事務事業の実手法や環境（予算的・人的）に改善が必要 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要 D : 事務事業の廃止が相当 | <ul style="list-style-type: none"> ● 判断の基準 <ul style="list-style-type: none"> 必要性（必要な事務事業であるか） 公共性（公が実施する意味があるか） 妥当性（ニーズに対して投入が適正か） 効率性（結果に至る活動に無駄はないか） 有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか） 市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか） |
|--|---|

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度	中部水道企業団への住民の認識も厳しい。	企業団と連携を密にし、苦情対応を迅速化する。	苦情内容をしっかりと市で受け止め、企業団へ対応を求めた。
平成19年度	豊明市の水道水は、愛知中部水道企業団によって給水されていることの認識が低い。	企業団へお客様相談窓口の開設を希望する。	水道事業に対する市民要望を漏れなく正確に企業団へ伝えた。
平成20年度	水道料金が県下で上位に位置づけされている。	市民の声をしっかりと企業団に届ける。	企業団と連絡を密にし、市民からの苦情に対し迅速な対応を図れるようにした。
平成21年度	豊明市の水道水は、愛知中部水道企業団によって給水されていることの認識が低い。	〃	〃
平成22年度	豊明市の水道水は、愛知中部水道企業団によって給水されていることの認識が低く、苦情等が市役所に連絡がくることがある。このような市民の声をしっかりと伝えるために、企業団との連絡を密にし、迅速な対応を図れるようにした。		
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

4 ■ 事務事業の総合評価結果

	結果	審査会による改善方向の指示
4 - 1 総合評価の結果	平成18年度	A 継続して事業を進めること。
	平成19年度	A 継続して事業を進めること。
	平成20年度	A 継続して事業を進めること。
	平成21年度	A 継続して事業を進めること。
	平成22年度	A 継続して事業を進めること。
	平成23年度	
	平成24年度	
	平成25年度	
	平成26年度	
	平成27年度	